令和5年度 京都府スーパーサポートセンター（SSC）主催
第2回 見えにくさのある児童生徒に関わる指導者研修会
報 告

1 テーマ　「自己理解から始まる自立活動～児童生徒が目的意識をもって取り組むために～」
2 日 時　令和5年8月4日（金）13:30～16:30
3 講 師　広島大学人間社会科学研究科 准教授 氏間 和仁 氏（府専門家チーム委員）
4 対 象　山城教育局管内の視覚障害及び見えにくさのある児童生徒に関わる指導者 等
5 場 所　SSCラボ（集合開催）

＜氏間 和仁 准教授＞

講　演

広島大学の氏間先生にお越しいただき、本研修会のテーマについて御講演をいただきました。先天性の弱視児童生徒は、生まれた時から見えにくい状態であることから、見えにくさが学習・生活にどう影響しているかを含めた自分の見え方を理解することの必要性と、その気づかせ方について、具体的な例を示しながらお話をいただきました。そして、自分の見え方を理解することと同時に、自己の働きかけによって生活しやすい環境にしていくように、視覚支援機器の活用や本人の能力の伸長を進め、児童生徒本人が、“できる自分”を確認できるようにすることの大切さを学ばせていただきました。

意見交流

6校9名の先生方に御参加いただき、「将来を見据え、児童生徒につけたい力と自立活動」というテーマで意見交流をしました。先生方には、児童生徒達が、自分のことをどう捉え、どんな思いや願いをもっているのか引き出すきっかけのひとつとして、アンケートを作成していただきました。児童生徒に尋ねたいことを考え、児童生徒がどう答えるか予想し、意見を交流していきました。

児童生徒の見え方や年齢などの実態は様々のため、同じ質問であっても回答は異なったものが予想されました。先生方からは、「改めて考えてみると、本人に直接尋ねてみたことがないことがたくさんある」「対話して本人が言葉にすることによって、自己理解につなげていきたい」といった意見が交わされました。

＜会場の様子＞

参加者アンケートより ＜感想（一部抜粋）＞

○自己理解のさせ方が難しいと思ってきたので、氏間先生の御講演が大変参考になりました。見えないで終わらず、見える活動で終わることによって、見たいという意欲につなげていきたいと思います。

○御講演を聞いたことで、本人が、なぜルーペ、単眼鏡、拡大読書器を使うのか、自己理解を正しく行い、自尊心を損なわない課題、体験から学びへ転換する過程が重要であることを再確認できました。

○弱視児童を指導する教員同士の交流はなかなか機会がないので、参考になったこともたくさんあり、学ばせていただきました。

○アンケート形式で本人の今の気持ちや理解につなげ、学習方法や将来に向けての思い、現状の困り感など、今後に役立てるようにしたい。